

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部 2年 前田志野

① 学習成果

今回のプログラム参加は、中国語学習に対するモチベーションを上げるとも貴重な経験となった。特に、中国人学生との交流や、他大学・他国からの参加者との会話の中で、今の状態ではいかに、自分が言いたいことを中国語で表現できないのだろうか、と思い知り、さらなる学習やコミュニケーション鍛錬の必要性を感じた。また、今回の学習で中国語と同時に使用した英語についても、さらなるコミュニケーション力強化の必要性を感じた。

今回のプログラムでは、中国語練習に加えて中国やその他の参加者の国について知る文化交流の機会多く設けられていたが、語学力不足により理解しきれない部分も多い。今回の悔しさを活かして、語学力を鍛えると同時に、中国語圏の文化についても理解を深めていきたいし、実地での中国留学や、少なくとも旅行で将来必ず中国に行ってみたい、という気持ちになった。

② プログラム内容と経験

今回のプログラムで一番良い経験だったのは、やはりほぼ毎日1時間開催された会話練習の授業とその宿題として課されたグループディスカッションであった。会話練習の授業では、単なる中国語文の音読などにはとどまらず、ベトナムやスペイン、米国、日本など生徒たちの様々なバックグラウンドを活かしたお互いの文化紹介や討論が行われた。もちろん、私たちのレベルですぐに本格的な討論をするのは難しいが、先生が間違っただけの語句の使い方を訂正するなどしながら、書記やまとめをしてくださっているので、読む・聞く練習をしながらディスカッションを行うことができた。また、宿題では、先生なしで生徒だけで中国語での短いディスカッションを行ったが、とても語学力が鍛えられる経験となった。授業とは違って、必ず自分の力で聞き取って、自分の力で話さなければならないため、集中して宿題に臨むことができたし、さらには、一緒にディスカッションしてくれた他大の日本人生徒の中国語のレベルに刺激を受ける機会ともなった。

③ 進路への影響について

今のところ、自分の進路は未定であるが、今回の体験で、自分の目をアジアに向けることができたと感じる。これまで、英語学習の身に力を入れてきたため、どうしても留学先や将来働いてみたい国に欧米を思い浮かべがちであった。実際に米国留学した経験もあり、これまでは近隣のアジア諸国はあまり自分の目が向いていなかったと感じる。しかし、ふとしたきっかけで始めた中国語学習から、このような留学に挑戦する機会に恵まれ、中国や参加国であったベトナムにも多くの魅力を感じ、さらに身近に感じるようになった。中国への関心が深まったことで、自分の「世界を見る」ときの視点が広がり、今後就職活動などを行う際にもより広い視点で考えられるようになると思う。

また、今回の留学をきっかけに中国語学習にさらに力を入れて、中国語をしっかりと使えるようになれば、将来の職業や活躍の幅が広がり、また中国やアジア圏と関わっていくことができると思うので、これからもしっかりと学習に力を入れていきたい。